

第1回から第10回まですべて、医療従事者に 資することができたと自負する



い が り じゅん
猪狩 淳
順天堂大学 名誉教授

略歴 猪狩 淳 (いがり じゅん)

1964年 順天堂大学医学部 卒業
1965年 順天堂大学医学部 臨床病理学講座入局
1985年 琉球大学医学部 保健学科臨床病理学 教授
1991年 順天堂大学医学部 臨床病理学 教授
順天堂大学医学部附属順天堂医院 臨床検査部長
2001～2005年 順天堂大学医学部附属浦安病院 院長
(現・順天堂浦安病院)
2004年 順天堂大学 名誉教授
2006年 三菱化学ピーシーエル(現・三菱化学メディエンス)
顧問
現在に至る

メディエンス FORUM は、2003年に第1回が開催されて以来、本年2012年6月で節目の第10回が開催されるに至りました。これにあたり、本誌 Animus の企画・編集室より「FORUMの10年を振り返って」と題して、私のコメントを求められたので、以下、思いつくままにこの10年を振り返ってみることにします。

FORUMのテーマの企画、立案は世話人会が行います。世話人会は、感染症および抗菌化学療法の基礎医学、臨床医学の専門家で構成され、その年のFORUMごとに、メインテーマとそれに関連の深い2～3のテーマを挙げ、それぞれの講演者を決定し依頼します。過去10回のテーマを見てみると分かるように、当然、その時折ごとに、社会的に大きな話題となった感染症、医学的に注目された感染症が取り上げられています。話題となり、注目された感染症の病原微生物学、臨床医学、臨床検査学、疫学、予防医学など、世話人会で十分に検討し、討議し、それにふさわしい講演者に依頼して決定することになります。

私は、このFORUMには2008年の第6回から代表世話人として世話人会に参画しました。以下、第6回以降のテーマと講演について列举してみます。

第6回 診断・治療に苦慮する感染症

- 講演1 「薬剤耐性肺炎球菌感染症の現状と対策」
岩田敏 先生
- 講演2 「変貌する淋菌感染症」松本哲朗 先生
- 講演3 「わが国において麻疹の排除 (elimination) は可能か」岡部信彦 先生

このFORUMでは、医学的に注目された感染症のうち、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症と淋菌感染症を取り上げました。さらに社会的に問題となり、マ

スコミなどで大きく報じられた、「はしか(麻疹)」を取り上げました。

第7回 感染症診断・治療へのアプローチ

<第1部 咳>

- 講演1 「咳と感染症を考える」岩田敏 先生
- 講演2 「百日咳を考える」岡田賢司 先生

<第2部 ペット感染>

- 講演3 「ペットからうつる感染症」兼島孝 先生

第8回 地球環境と感染症

- 講演1 「自然環境と深在性真菌症
— 地域流行型真菌症も含めて—」
大野秀明 先生
- 講演2 「蚊など昆虫が運ぶウイルス感染症
— 日本脳炎, デング熱を中心に—」
森田公一 先生
- 講演3 「新型インフルエンザ — 動向と今後の対策—」
安井良則 先生

第9回 「多剤耐性グラム陰性桿菌感染症を考える — 忍び寄る脅威・多剤耐性菌—」

- 講演1 「多剤耐性菌の現状について」荒川宜親 先生
- 講演2 「早期検出について」石井良和 先生
- 講演3 「院内での対応について」大塚喜人 先生
- 講演4 「施設内感染対策の実際
— 多剤耐性アシネトバクターを中心に—」
高田徹 先生

2008年頃から多剤耐性 *Acinetobacter baumannii* 感染症が病院感染症の起炎菌として報告され、社会的に問題となりました。これを機に、次々と報告される多剤耐性菌について、その現状、迅速検出法、病院内での感染症発生・伝播防止および施設内感染対策などについて改めて考えてみることは重要か

つ意義のあることであるという意見が世話人会で提案され、第9回(2011年)の企画となりました。このFORUMは、臨床医、看護師、臨床検査技師はもとより、コメディカルの病院管理者、事務員に至るまで大きなインパクトを与えたと思っています。

第10回 微生物検査の将来展望

- 講演1 「病原真菌の新分類が検査分野にもたらすインパクト
— 病原真菌の分類・同定はなぜ難しいのか?—」
杉田隆 先生
- 講演2 「臨床微生物検査の今後の展望
— 三大技術革新と患者診療への貢献—」
大楠清文 先生
- 講演3 「検査データを利用した院内感染対策
サーベイランスシステムの実用化
— 自施設の感染対策を評価する—」
鈴木里和 先生

感染症に特化したFORUMの最終回として、これまで取り上げてきた感染症を中心としたテーマから離れ、視点を微生物検査に向け、今後の微生物検査はいかなる方向に進んでいくのであろうかという、現在、感染症学会、臨床微生物学会で注目されている話題をテーマにしました。微生物検査の技術革新や将来の展望が浮き彫りになったと思います。また、日常の検査データをフルに活用し、感染対策に役立たせる新しい試みは、今後の感染対策に応用できることを示唆するものでした。

*

以上、第6回から第10回のFORUMについて概観しました。第1回からのテーマはいずれも、特に医療現場のメディカル、コメディカルの方々に資することができたと自負しており、このFORUMの果たした役割は大きいと考えております。

10年を振り返って

講演1

講演2

講演3

講演を終えて

語句解説

FORUM開催事務局後記

最新トピックス

連載ダイエット

検査と私

医の提言

徒然なるままに。